

# Newsletter of Japanese Coral Reef Society



contents

page

日本サンゴ礁学会第25回大会 プログラム	2-9
活動紹介	10
サンゴ礁研究ハイライト	10





# 第25回大会および公開シンポジウムのご案内

2022年11月10日(木) ~ 11月13日(日)

石垣市民会館中ホール

大会実行委員長：鈴木 豪(水産技術研究所)

大会実行委員：新里 宙也(東京大学大気海洋研究所), 大嶽 若緒(環境省石垣自然保護官事務所),

江川 博子(環境省石垣自然保護官事務所), 下瀬 環(水産資源研究所),

山下 洋(水産技術研究所), 谷田 巖(水産技術研究所),

笹野 祥愛(水産技術研究所)

詳細は学会ウェブサイト

<http://www.jcrs.jp/> の

大会案内をご覧ください。

## 大会スケジュール

11月10日(木) 理事会・代議員総会・自由集会		会場
17:00-19:00	理事会・代議員総会 Board of Directors, General Assembly	オンライン
19:00-20:30	自由集会① Mini-workshop ①	大演信泉記念館：多目的ホール
11月11日(金) 大会1日目		会場
8:45	受付開始 Reception open	石垣市民会館：中ホール玄関ロビー
9:40-9:45	開会の挨拶 Opening ceremony	石垣市民会館：中ホール
9:45-12:00	口頭発表① Oral presentation ①	石垣市民会館：中ホール
12:00-13:00	休憩 Break	
13:00-14:00	ポスター発表A(奇数番号) Poster presentation A(Odd numbers)	石垣市民会館：展示ホール
14:00-18:15	口頭発表② Oral presentation ②	石垣市民会館：中ホール
19:00-20:30	自由集会② Mini-workshop ②	大演信泉記念館：多目的ホール
11月12日(土) 大会2日目		会場
8:45-	受付開始 Reception open	石垣市民会館：中ホール玄関ロビー
9:15-12:00	口頭発表③ Oral presentation ③	石垣市民会館：中ホール
12:00-13:00	休憩 Break	
13:00-14:00	ポスター発表B(偶数番号) Poster presentation B(Even numbers)	石垣市民会館：展示ホール
13:30-14:30	小・中・高校生によるサンゴ礁研究ポスター発表 & サンゴ礁保全活動ポスター発表 Poster presentation by elementary, junior, and senior high school students / reef conservation groups	石垣市民会館：中ホールロビー
14:30-18:15	口頭発表④ Oral presentation ④	石垣市民会館：中ホール
19:00-20:30	自由集会③ Mini-workshop ③	大演信泉記念館：多目的ホール
19:00-20:30	自由集会④ Mini-workshop ④	大演信泉記念館：研修室
11月13日(日) 大会3日目(最終日)		会場
8:45-	受付開始 Reception open	石垣市民会館：中ホール玄関ロビー
9:00-12:30	公開シンポジウム Public Symposium	石垣市民会館：中ホール
12:30-13:30	休憩 Break	
13:30-15:30	学会各賞授賞式・受賞講演 JCRS Awards Ceremony	石垣市民会館：中ホール
16:00-17:30	自由集会⑤ Mini-workshop ⑤	石垣市民会館：中ホール

### ■新型コロナウイルス感染症対策

- 発熱や咳の症状のある方, 体調のすぐれない方は来島・来場をご遠慮ください。
- 会場内ではマスクを着用し, 入り口での手指の消毒をお願いします。
- 離島の医療体制は脆弱であるため, 会期中のみならず, 来島中はマスク着用・手洗いがい・消毒の実施など基本的な感染症対策の徹底をお願いいたします。

### ■大会受付

- 大会受付は石垣市民会館中ホールの玄関ロビーにて行います。

### ■口頭発表

- 会場は石垣市民会館中ホールです。講演時間は15分(発表12分+質疑応答3分)です。
- 発表機材として, パソコン(Windowsのみ)と液晶プロジェクターを用意します。発表に使うソフトは原則"Microsoft Power Point"もしくは"Adobe PDF"とします。発表前の休み時間までには発表ファイルを発表会場の指定のパソコンにコピーし, 動作確認をしておいて下さい。
- 各自のパソコンを使用することも可能ですが, 事前に接続の確認をして下さい。接続端子はHDMIのみです。
- 学術大会若手発表賞へエントリーされている発表には講演番号に「\*」が付いています。

### ■ポスター発表

- 一般のポスター発表は11日(奇数番号)と12日(偶数番号)に分けて行います。会場は石垣市民会館の展示ホールです。
- 小中高生ポスター発表及びサンゴ礁保全活動ポスター発表は12日に行います。会場は石垣市民会館の中ホール前ロビーと玄関ホールです。
- A0ポスター(縦119cmx横84cm)が貼れる大きさのパネルあるいはスペースを設置予定です。この範囲に収まるよう, ポスターの大きさを設定してください。
- 11日9:00から13日16:00まで掲出出来ます。お手数ですが, お帰りになる前に回収をお願いします。ポスターの貼り付けは画鋏を準備しておりますので各自でお願いいたします。(画鋏以外での貼り付けは禁止です。)
- 学術大会若手発表賞へエントリーされている発表には講演番号に「\*」が付いています。

### ■口頭発表・ポスター発表プログラム

- 次ページ以降をご参照下さい。

### ■休憩スペース

- 石垣市民会館中ホール・展示ホールは飲食禁止です。2階会議室を休憩スペースとして用意していますのでご利用ください。

### ■喫煙場所

- 館内は全面禁煙です。指定の屋外喫煙所をご利用ください。

### ■ゴミ箱

- 館内に設置されているごみ箱は「使用禁止」です。ごみは各自でお持ち帰りください。

# 大会プログラム

## ■ 11月10日(木) / 10th November (Thu)

代議員総会・理事会・自由集会 / Board of Directors, General Assembly, Mini-workshop

【会場 / Location】 Zoom

理事会・代議員総会	17:00-19:00	オンライン /online
自由集会①	19:00-20:30	大濱信泉記念館：多目的ホール /Nobumoto Ohama Memorial Hall

## ■ 1日目 11月11日(金) / 11th November (Fri)

08:45	受付開始
-------	------

口頭発表 ① 9:45-12:00 / Oral presentation ① 9:45-12:00

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホール /Ishigaki City Community Center Medium Hall

座長 (Chair): 本郷宙軌, 中村 崇

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
	9:40-9:45	開会の挨拶	鈴木 豪 (日本サンゴ礁学会第25回大会実行委員長)
O-1	9:45-10:00	恩納リーフ内のセイシュ(固有振動)の観測	丹羽 淑博, 武田 智子, 藤田 乃里, 茅根 創 (東京大・院理), 田島 芳清 (東京大・院工), 御手洗 哲司 (沖縄科学技術大学院大)
O-2	10:00-10:15	サンゴ骨格の窒素同位体比から推定する低緯度域の窒素の起源	山崎 敦子 (九州大・院理/喜界島サンゴ研), 渡邊 剛 (北海道大・院理/喜界島サンゴ研)
O-3*	10:15-10:30	種子島産化石ハマグリ殻の安定同位体比・微細構造解析を用いた縄文後期の古環境復元へのアプローチ	藤田 寛之 (1), 渡邊 剛 (1)(2), 駒越 太郎 (2), 山崎 敦子 (2)(3)(4)(1 北海道大・院理)(2 NPO 法人喜界島サンゴ礁科学研究所)(3 九州大・院理)(4 名古屋大・院環境)
O-4	10:30-10:45	流動-物質循環-サンゴポリブスケール白化の結合モデルによる石西礁湖のサンゴ白化シミュレーション	中村 隆志 (東工大・環境・社会理工), 宮島 利宏, 樋口 富彦 (東大・AORI), Sylvain Agostini (筑波大・下田臨海), 湯山 育子 (山口大・農), 藤村 弘之 (琉大・理)
休憩			
O-5	11:00-11:15	西表島礁池内に漂流する軽石とマイクロプラスチック量の推定	廣瀬 慎美子, 笹野 智生, 福井 綾乃, 高無 健人, 内海 さくら, 萩原 真優, 米山 慶亮, 今村 光一, 中村 雅子 (東海大・海洋)
O-6	11:15-11:30	琉球列島に漂着した軽石におけるカルエボンの付着状況の経時的変化	藤田喜久 (沖縄県立芸術大学), 水山 克 (産業総合研究所)
O-7	11:30-11:45	テルピオスカイメンと空間障壁	山城 秀之 (琉球大・熱生研・瀬底), Siti Nurul Aini (琉球大・院・理工)
O-8	11:45-12:00	Bleaching and recovery of the giant clam <i>Tridacna crocea</i> from Okinawa	Sherry Lyn G. Sayco (Univ of Ryukyus), Haruko Kurihara (Univ of Ryukyus)

ポスター発表 A (奇数番号) 13:00-14:00 / Poster presentation A (Odd numbers) 13:00-14:00

【会場 / Location】 石垣市民会館：展示ホール /Ishigaki City Community Center Exhibition Hall

口頭発表 ② 14:00-18:15 / Oral presentation ② 14:00-18:15

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホール /Ishigaki City Community Center Medium Hall

座長 (Chair): Frederic Sinniger, 識名信也, 波利井佐紀

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
O-9	14:00-14:15	環境中で検出される日焼け止め成分オキシベンゾンはウエダミドリイシ <i>Acropora tenuis</i> の光合成収率や遺伝子発現に影響するの?	石橋 弘志 (愛媛大・院農), 西村 紗織里 (愛媛大・農), 田中 こころ (愛媛大・農), 治多 伸介 (愛媛大・院農), 高山 弘太郎 (豊橋技術科学大・EIRIS, 愛媛大・院農), 山城 秀之 (琉球大・熱生研), 〇竹内 一郎 (愛媛大・院農)
O-10	14:15-14:30	Photoreceptors response to different light wavelengths in stony coral <i>Acropora digitifera</i>	Shi Zongyan (琉大・院理), 竹村 明洋 (琉大・理)
O-11*	14:30-14:45	Coral-algae interactions under ocean acidification	Joshua Heitzman (筑波大学・下田臨海実験センター), Sylvain Agostini (筑波大学・下田臨海実験センター), Akihiro Hirata (筑波大学・下田臨海実験センター), Guinther Mitushasi (筑波大学・下田臨海実験センター)
O-12	14:45-15:00	Identification of sex chromosomes in gonochoric stony coral reveals XX/XY sex-determination system	Joshua VACARIZAS (Kochi University), Takahiro TAGUCHI (Kochi Gakuen University), Takuma MEZAKI (Kuroshio Biological Research Foundation), Sam Edward MANALILI (Kochi University), Rei KAWAKAMI (Kochi University), Satoshi KUBOTA (Kochi University)
O-13	15:00-15:15	培養皿の中でサンゴを飼育する技術の開発	識名 信也, 林子傑, 曲昱玲, 鄭尹筑, 張宇恩, (台湾海洋大), 和田 直久, 湯森林 (中央研究院), 邱頤陵 (東大)
休憩			
O-14*	15:30-15:45	An Accessible Alternative Micro-CT Methodology to Accurately Determine Coral Nubbin Surface Area	Sam Edward N. MANALILI (Agriculture and Marine Science Program, Kochi University), Satoshi KUBOTA (Kuroshio Science Unit, Kochi University)
O-15	15:45-16:00	Continuous analysis of alkalinity in coral reef ecosystems	Tomoko TAKEDA (Univ. Tokyo), Yoichi IDE (Oceanic Planning Corporation Co., Ltd.), Nori FUJITA (Univ. Tokyo), Toshimasa MIYAWAKI (Japan Metals & Chemicals Co., Ltd.), Akihide HEMMI (Mebius Advanced Technology Ltd.), Hajime KAYANNE (Univ. Tokyo)

O-16	16:00-16:15	Growth and calcification rates in the lower photic zone. What are the implications?	Sam Kahng (KIKAI Institute for Coral Reef Science), Takumi Kishi (Hokkaido University), Ryohei Uchiyama (Hokkaido University), Tsuyoshi Watanabe (Hokkaido University)
O-17	16:15-16:30	Scleractinian coral communities at the deepest edge of the reef in Okinawa	Frederic Sinniger ( 琉球大・熱生研 ), Michel Pichon (Museum of Tropical Queensland), 波利井佐紀 ( 琉球大・熱生研 )
O-18*	16:30-16:45	Coral recruitment in Okinawan mesophotic ecosystems	Ritzelle Lima Albelda (Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus, Japan), Frederic Sinniger (Sesoko Station, Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus, Japan), Saki Harii (Sesoko Station, Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus, Japan)
休 憩			
O-19	17:00-17:15	サンゴの時空間動態に対する多重攪乱の影響	岩崎藍子 ( 東北大・浅虫 ), Matthias RILLIG ( ベルリン自由大 / BBIB), 酒井一彦 ( 琉球大・瀬底 )
O-20*	17:15-17:30	Role of local environmental variations in shaping coral communities	Singh T. (University of the Ryukyus), Sakai K. (University of the Ryukyus)
O-21	-	( 演題取り下げ )	
O-22*	17:45-18:00	四国南海域におけるハナヤサイサンゴ ( <i>Pocillopora damicornis</i> ) の稚サンゴの生残, と成長	森 舞衣, 坂間 海太 ( 東海大・海洋 ), 日崎 拓真 ( 黒生研 ), 中村 雅子 ( 東海大・海洋 ), 久保田 賢 ( 高知大・黒潮圏 )
O-23*	18:00-18:15	ユビエダハマサンゴ <i>Porites cylindrica</i> の繁殖生態	伊野波佳介 ( 琉大・院理 ), 栗原晴子 ( 琉大・理 ), 銘苅海星 ( 沖縄高専・生物資源 ), 磯村尚子 ( 沖縄高専・生物資源 )

**自由集会 19:00-20:30 / Mini-workshop 19:00-20:30**

集会番号 No.	会場	集会題目 Title	企画者 / Organizer
自由集会 ②	大濱信泉記念館：多目的ホール Nobumoto Ohama Memorial Hall	サンゴ礁生態系保全における化学物質と多量および微量元素	藤田 喜久 ( 沖縄県立芸術大学：サンゴ礁保全学術委員会委員長 )



**■ 2 日 目 11 月 12 日 ( 土 ) / 12th November (Sat)**

08:45	受付開始
-------	------

**口頭発表 ③ 9:15-12:00 / Oral presentation ③ 9:15-12:00**

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホール / Ishigaki City Community Center Medium Hall

座長 (Chair): 和田 直久, 西辻 光希

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者 ( 所属 ) Authors (Affiliation)
O-24	9:15-9:30	テーブル状ミドリイシ属サンゴの種分化に遺伝子浸透は関与しているのか	古川 真央 ( 琉球大, 院理工 ), 北之坊 誠也 ( 筑波大・下田臨海実験センター ), 守田 昌哉 ( 琉球大・熱生研・瀬底 )
O-25	9:30-9:45	白保・明石礁内のアオサンゴ集団における空間遺伝構造推定	谷中 絢貴 ( 琉球大・理 ), Daniel Frikli Mokodongan (LIPI), La Sara (Halu Oleo Univ.), 菊地 泰生 ( 東京大・院新領域創成科学 ), 湯浅 英知 ( 東工大・生命理工 ), 陶山 佳久 ( 東北大・院農 ), 安田 仁奈 ( 東京大・院農学生命科学 )
O-26	9:45-10:00	ミドリイシ属サンゴの産卵時期の違いに関わる遺伝的基盤	仮屋園 志帆 (産総研・地質情報), 井口 亮 (産総研・地質情報), 寺井 洋平 (総研大・先導研)
O-27	10:00-10:15	環境 DNA を用いた造礁サンゴ属判別手法の開発	西辻光希 (OIST), 新里宙也 ( 東京大・大海研 ), 成底晴日 (OIST), 長田智史 ( 沖縄科 ), 佐藤矩行 (OIST), 井上潤 ( 東京大・大海研 )
O-28	10:15-10:30	沖縄本島 63 地点の造礁サンゴ分布の理解 ~ 目視と環境 DNA で ~	成底 晴日 (OIST), 長田 智史 ( 沖縄科 ), 西辻 光希 (OIST), 金井 恵 ( 沖縄科 ), 久田 香奈子 (OIST), 新里 宙也 ( 東京大・大海研 ), 佐藤 矩行 (OIST)
休 憩			
O-29*	10:45-11:00	<i>Vibrio</i> 属細菌に対するコピミドリイシ抗菌ペプチドの活性評価	青山華子 ( 東大新領域・東大大海研 ), 高木俊幸 ( 東大大海研 ), 福丸璃子, 岡井公彦 ( 海洋大 ), 井上広滋 ( 東大大海研 )
O-30	11:00-11:15	Ocean Currents May Influence the Endolithic Bacterial Composition in Coral Skeletons	Po-Yu Liu (Academia Sinica), Sung-Yin Yang (National Chiayi University), Chih-Ying Lu (Academia Sinica), Naohisa Wada (The University of Tokyo), Stephane De Palmas (National Taiwan University), Shu-Shuo Yeh (National Taiwan University), Hideyuki Yamashiro (University of the Ryukyus), Sen-Lin Tang (Academia Sinica) and Shan-Hua Yang (National Taiwan University)
O-31*	11:15-11:30	Fecal microbes of <i>Holothuria (Halodeima) atra</i> and its connectivity with ambient microbial community in Okinawajima Island.	Kohei Hamamoto (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)・MISE Lab, Univ. of the Ryukyus, Grad. School of Engr. and Sci.), Angelo Pliseno (MISE Lab, University of the Ryukyus, Grad. School of Engr. and Sci.), Miyuki Nishijima, Masaru Mizuyama (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)), James Davis Reimer (MISE Lab, University of the Ryukyus, Grad. School of Engr. and Sci.・Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus)
O-32	11:30-11:45	<i>Stylophora pistillata</i> 組織内における細菌集合体	和田 直久, Ming-Tsung Hsu, Kshiti Tandon (AS・BRC), Silver Sung-Yun Hsiao (AS・IAA), Hsing-Ju Chen, Yu-Hsiang Chen, Pei-Wen Chiang, Sheng-Ping Yu, Chih-Ying Lu, Yu-Jing Chiou, Yung-Chi Tu (AS・BRC), Xuejiao Tian, Bi-Chang Chen (AS・RCAS), Der-Chuen Lee (AS・IES), 山城秀之 ( 琉大 熱生研 ), David G. Bourne (JCU), Sen-Lin Tang (AS・BRC)
O-33	11:45-12:00	CGH 法を用いた染色体観察によるゲノム DNA 間の相違の検出	川上 玲 ( 高知大院・農林海洋 ), 田口 尚弘 ( 高知学園大・管理栄養, 高知大・黒潮圏 ), 日崎 拓真 ( 黒生研 ), Joshua Vacarizas ( 高知大・黒潮圏 ), 久保田 賢 ( 高知大・黒潮圏 )

**ポスター発表 B ( 偶数番号 ) 13:00-14:00 / Poster presentation B (Even numbers) 13:00-14:00**

【会場 / Location】 石垣市民会館：展示ホール /Ishigaki City Community Center Exhibition Hall

**ポスターセッション / 小・中・高校生によるサンゴ礁研究ポスター発表 / サンゴ礁保全活動ポスター発表 13:30-14:30  
Poster presentation/Poster presentation by Elementary, junior, and senior high school students Reef Conservation groups 13:30-14:30**

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホールロビー・玄関ロビー /Ishigaki City Community Center Medium Hall lobby and entrance lobby

**口頭発表 ④ 14:30-18:15 / Oral presentation ④ 14:30-18:15**

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホール /Ishigaki City Community Center Medium Hall

座長 (Chair): 佐藤崇範, 鹿熊信一郎, 中野義勝

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
O-34	14:30-14:45	「八重山うみしまフレンドシップ」による持続可能な産業クラスターの形成に向けて	宮本 善和 (石西礁湖サンゴ礁基金)
O-35	14:45-15:00	中琉球 (沖繩本島周辺, 奄美群島) における特異なサンゴ群落の保護に向けて	中野 義勝 (沖繩科学技術大学院大学), 磯村尚子 (沖繩高専)
O-36	15:00-15:15	里海における水産資源管理と多様なアプローチ	鹿熊 信一郎 (佐賀大学海洋エネルギー研究所)
O-37	15:15-15:30	航空レーザ測深データによる礁池内における退避地候補エリアの抽出	佐野 滝雄, 大橋 真, 金田 真一 (アジア航測)
休 憩			
O-38	15:45-16:00	高水温適応・緩和策を講じた石西礁湖におけるサンゴ群集修復事業	山本 以智人, 大嶽 若緒 (環境省石垣自然保護官事務所), 岡田 亘, 佐川 鉄平 (沖環科), 砂川 政彦, 小林 鉄郎 (八重山漁協), 鈴木 豪 (水研機構・水技研)
O-39	16:00-16:15	サンゴ幼生着床・育成基盤の開発と実証	上道 奈瑠実, 藤家 亘, 米澤 泰雄, 小松 俊晶 (国際航業(株)), 鈴木 豪 ((国研)水産研究・教育機構 水産技術研究所), 完山暢 ((一社)水産土木建設技術センター), 首藤敦 (水産庁)
O-40	16:15-16:30	長期観測データに基づく人工構造物を用いたサンゴ生息場再生の有効性の検証	棚谷 灯子 (港湾空港技術研究所), 岩村 俊平 (旧エコー, 現沖環科), 岡田 亘 (旧エコー, 現沖環科), 桑江 朝比呂 (港湾空港技術研究所)
O-41	16:30-16:45	亜熱帯沿岸生産者の季節消長が藻場の純生産量および生物多様性に与える影響	戸崎 幹大, Gregory N. Nishihara (長崎大・海洋機構), 岡 慎一郎 (美ら島財団研セ), 宮本 奈保 (Momo & Co.), 田中 厚子 (琉球大・理)
O-42*	16:45-17:00	石垣島名蔵湾のサンゴ礁における干潟・海草帯の発達史	佐野 亘 (九州大・院), 横山 祐典, 宮入 陽介 (東京大・大海研), 菅 浩伸 (九州大・比文)
休 憩			
O-43	17:15-17:30	地域資料としての研究者資料の意義 — 八重山地域におけるサンゴ礁研究の事例から	佐藤 崇範 (琉球大・島嶼地域研)
O-44	17:30-17:45	サンゴの地球科学的アプローチと演劇の現象的還元手法を用いたサンゴと人の記憶の高精度復元	渡邊 剛 (北大・院理), 山崎 敦子 (九大・院理), 宮崎 玲奈 (青年団), 山下 恵実 (青年団), SceNE プロジェクトメンバー
O-45	17:45-18:00	与那国島のサンゴ礁地形	菅 浩伸 (九州大・比文), 木村 颯 (九州大・院地球社会), 佐野 亘 (九州大・院地球社会), 藤田 喜久 (沖繩県立芸大), 三納 正美 (九州大・比文)
O-46	18:00-18:15	浜辺に打ち上がったサンゴから分布北限を考える	山野 博哉 (国環研), 北野 裕子 (自然研), 熊谷 直喜 (国環研)

**自由集会 19:00-20:30 / Mini-workshop 19:00-20:30**

集会番号 No.	会場	集会題目 Title	企画者 / Organizer
自由集会 ③	大濱信泉記念館：多目的ホール Nobumoto Ohama Memorial Hall	喜界島サンゴロジー	渡邊 剛, 山崎 敦子, 駒越 太郎 (喜界島サンゴ礁科学研究所)
自由集会 ④	大濱信泉記念館：研修室 / Nobumoto Ohama Memorial Hall	蛍光撮影技術を生かした海洋生物イメージングとモニタリング - VII	古島 靖夫 (JAMSTEC), 鈴木 貞男 (O.R.E.), Sylvain Agostini (筑波大・下田)

**■ 3 日目 11 月 13 日 ( 日 ) / 13th November (Sun)**

08:45	受付開始
-------	------

**公開シンポジウム 09:00-12:30 / Public Symposium 09:00-12:30**

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホール /Ishigaki City Community Center Medium Hall

**学会各賞授賞式・受賞講演 13:30-15:30 / JCRS Awards Ceremony 13:30-15:30**

【会場 / Location】 石垣市民会館：中ホール /Ishigaki City Community Center Medium Hall

**自由集会 16:00-17:30 / Mini-workshop 16:00-17:30**

集会番号 No.	会場	集会題目 Title	企画者 / Organizer
自由集会 ⑤	石垣市民会館：中ホール /Ishigaki City Community Center Medium Hall	サンゴ礁への恩返し, いま私たちがすべきこと。～石西礁湖自然再生協議会より～	大嶽 若緒 (環境省)



## ポスター発表 / Poster presentation

ポスター番号が奇数の発表は 11 月 11 日 (金)13:00-14:00, 偶数の発表は 11 月 12 日 (土)13:00-14:00 です。学術大会若手発表賞へエントリーされている発表には「\*」が付いています。ポスターは 11 日 9:00 から 13 日 16:00 まで掲示出来ます。お手数ですが、お帰りになる前に回収をお願いします。  
The poster presentations are held from 13:00 - 14:00 on Nov 11th (Odd numbers) and from 13:00 - 14:00 on Nov 12th (Even numbers). The presentation entries to Presentation Award for young scientist is marked as "\*". Poster boards are available from 9:00 on Nov 11th to 16:00 on Nov 13th. Please take your posters off before you leave the hall.

番号 No.	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
P-1*	分光反射特性と光学衛星観測データを用いた沖縄本島沿岸域における浮遊軽石の検出	佐久間 東陽 (木更津高専), 波利井 佐紀 (琉球大・熱帯生物圏研究センター), Frederic SINNIGER (琉球大・熱帯生物圏研究センター), 山野 博哉 (国環研)
P-2	地球観測衛星データによる 2022 年夏期八重山諸島周辺の潜在的サンゴ白化エリア概観把握の可能性	水上 陽誠, 田殿 武雄 (JAXA 地球観測研究センター)
P-3	日本のサンゴ礁における縁脚 — 縁溝系地形の分布とその形態	中井 達郎 (国土舘大学, 九州大学)
P-4	大規模架橋による南西諸島沿岸景観への影響	田代 豊 (名桜大・国際)
P-5	喜界島における CCP 解析から明らかになる現生サンゴ群集の礁形成能力	岸 拓未 (1), 渡邊 剛 (1)(2), 山崎 敦子 (2)(3)(4), 駒越 太郎 (2)(1 北海道大・院理) (2 NPO 法人喜界島サンゴ礁科学研究所) (3 九州大・院理) (4 名古屋大・院環境)
P-6	和歌山県串本にあるサンゴ群集マウンドは沈水サンゴ礁なのか?	本郷 宙軌 (和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター / 和歌山大), 浅海 竜司 (東北大)
P-7	水中カメラと AI によるサンゴ計測・分類技術の開発	三浦 雄太, 片山 美可, 川島 祐人, 藤家 亘 (国際航業株式会社), 鈴木 豪 ((国研) 水産研究・教育機構 水産技術研究所), 完山 暢 ((一社) 水産土木建設技術センター), 首藤 敦 (水産庁)
P-8	多波長励起蛍光撮影装置を搭載した簡便・安価な小型 ROV の開発	古島 靖夫 (海洋研究開発機構), 鈴木 貞男 (O.R.E), Sylvain Agostini (筑波大学・下田), 和田 茂樹 (筑波大学・下田), 山下 洋 (水産機構西海水研), 山北 剛久 (海洋研究開発機構)
P-9*	宮崎県日南市大島沿岸のサンゴ群落の変遷	福地 廉 (宮崎大・院農), 深見 裕伸 (宮崎大・農)
P-10	世界有数の二ホンアワサンゴ分布域山口県周防大島における生息条件	片山 悦治郎, 小濱 智之, 松田 賢, 立松 俊和, 桑井 孝一, 溝下 博志, 金子 幸司 (パシフィックコンサルティング)
P-11	Branching coral growth length in the coral triangle area, North Sulawesi, Indonesia (10N)	Kakaskasen Andreas Roeroe (Sam Ratulangi University), Chatrien A.L. Sinjal (Sam Ratulangi University), Janny D. Kusen (Sam Ratulangi University), Sandra O. Tilaar (Sam Ratulangi University)
P-12*	長崎市高島における夏季の有藻性イシサンゴ類の成長速度と体色変化	伊藤 真依子 (長崎大院・水環), 宮原 昂太郎 (長崎大・環境), 白垣 友寛, 山口 真弘, 高巢 裕之 (長崎大院・水環), 福村 学・小村 秀蔵 (やっつらう de 高島)
P-13*	異なるサンゴ群体形における成長速度の違い	島田 真之介 (琉大・理)・栗原 晴子 (琉大・理)
P-14	Photo-acclimation of shallow corals in depths environment	Parviz Tavakoli-Kolour (Grad. Sch. of Eng. and Sci., University of the Ryukyus), Frederic Sinniger (TBRC, University of the Ryukyus), Masaya Morita (TBRC, University of the Ryukyus), Sanaz Hazraty-Kari (Grad. Sch. of Eng. and Sci., University of the Ryukyus), Takashi Nakamura (TBRC, University of the Ryukyus), Saki Harii (TBRC, University of the Ryukyus)
P-15	サンゴ類の種ごとの電子伝達速度の特徴	今泉 久祥 (株式会社エコー)
P-16*	礁池内外におけるミドリイシ属サンゴの水温耐性比較	伊佐 春輝, 栗原 晴子 (琉大・理)
P-17	Recovery process of coral vital rates after bleaching event	Yoko Nozawa (Academia Sinica)
P-18	沖縄島備崎周辺のサンゴの回復速度	山本 広美 (沖縄美ら島財団), 山川 英治 (沖縄県環境科学センター), 岡地 賢 (コーラルクエスト)
P-19	石西礁湖内に生息するヤナギウミエラ類の観察	上野 弘光 (石西礁湖サンゴ礁調査), 砂川 政彦 (八重山漁協協同組合), 中村 崇 (琉大・海洋自然科学科)
P-20*	コビエダハマサンゴにおける隠蔽種の検証	銘苅 海星 (沖縄高専・生物資源), 中野 晃 (宮崎大・農), 伊野波 佳介 (琉球大・理工), 中野 義勝 (OIST・マリンサイエンスサポートセクション), 栗原 晴子 (琉球大・理), 安田 仁奈 (東大・農), 磯村 尚子 (沖縄高専・生物資源)
P-21*	<i>Cyphastrea serailia</i> (Scleractinia: Merulinidae) is a species complex	CHUKAEW THANAPAT (Miyazaki Univ), HIRONOBU FUKAMI (Miyazaki Univ)
P-22*	同所的に生息するミドリイシ属サンゴ交雑検出の試みー Gradi 解析を用いてー	北之坊 誠也 (筑波大学・下田臨海), 古川真央 (琉球大学・瀬底研究施設), 大木駿 (広島大学・大学院医系科学研究科), Sanaz Hazraty-Kari, (琉球大学・瀬底研究施設), Parviz Tavakoli-Kolour (琉球大学・瀬底研究施設), Tanya Singh (琉球大学・瀬底研究施設), 守田 昌哉 (琉球大学・瀬底研究施設)
P-23	アカサンゴの水槽内繁殖	目崎 拓真 (黒生研), 関田 諭子 (高知大学・黒潮圏), 古井戸 樹 (黒生研), 吉本 憲充 (宝石珊瑚保護育成協議会)
P-24	閉鎖循環水槽におけるヤングミドリイシの産卵・交配・着床事例	萬 倫一 (マクセルアークアパーク品川), 野口 彩伽 (マクセルアークアパーク品川), 坂田 弥耶 (マクセルアークアパーク品川), 砂川 政彦 (八重山漁協サンゴ種苗生産部会), 小林 鉄郎 (八重山漁協サンゴ種苗生産部会), 木村 祐子 (AI ネット株式会社)
P-25*	ミドリイシ 4 種における頂端ポリプからの位置がポリプの繁殖力に与える影響	高無 健人, 中村 雅子, 廣瀬 慎美子 (東海大・海洋)
P-26*	ココビミドリイシの受精および幼生期に対する軽石漂流・漂着の潜在的影響	YIN XIANGYU (琉大・理), SHI ZONGYAN (琉大・院理), 中村 崇 (琉大・理)
P-27*	プラヌラ幼生が着生に至る特有の遊泳行動	石川 舞結, 服田 昌之 (お茶大・院ライフサイエンス)
P-28	Response of resistant larvae to future thermal stress	Sanaz Hazraty-Kari (Grad. Sch. of Eng. and Sci., University of the Ryukyus), Masaya Morita (TBRC, University of the Ryukyus), Parviz Tavakoli-Kolour (Grad. Sch. of Eng. and Sci., University of the Ryukyus), Saki Harii (TBRC, University of the Ryukyus)
P-29	Effect of sedimentation on the settlement competencies of two coral species ( <i>Acropora digitifera</i> and <i>Sinularia</i> sp.)	Tracy Tabalanza (University of the Ryukyus), Takashi Nakamura (University of the Ryukyus)
P-30	崎枝湾における環境勾配によるミドリイシ属サンゴの着生後生残比較	鈴木豪, 田代郷国, 藤倉佑治, 谷田巖 (水技研), 栖原有里 (エコー), 藤家亘, 米澤泰雄 (国際航業), 完山暢 (水産土木センター), 首藤敦 (水産庁)
P-31	西表島網取湾におけるサンゴ幼生定着量の長期変動	中村 雅子, 今村 光一, 高無 健人, 米山 慶亮, 廣瀬 慎美子, 横地 洋之, 山田 吉彦 (東海大・海洋), 村上 智一 (防災科研), 河野 裕美 (Island Ecosystem Research), 酒井 一彦 (琉大・熱生研)

P-32	竹富南航路整備事業におけるサンゴ礁保全に向けた取組	池原 浩太, 石水 秀延, 石森 博雄, 毛塚 大輔, 田端 重夫, 中西 喜栄, 藤沼 紀敏 (いであ株式会社), 國吉 啓太, 橋本 雷士 (内閣府沖縄総合事務局 石垣港湾事務所)
P-33	リスクニング手法の最適条件の検討	重村 太一, 栖原 有里, 田村 圭一 (株式会社エコー), 鈴木 豪 (水産研究・教育機構 水産技術研究所), 完山暢 (水産土木建設技術センター), 首藤敦 (水産庁)
P-34	GMCによるサンゴ再生とエコツーリズム	木原 一禎, 佐藤 智香, 細川 恭史 (エム・エムブリッジ株式会社), 小村 秀蔵 (やったろうde 高島), 仲岡 宏樹, 近藤 充浩 (日本防蝕工業株式会社), 鯉淵 幸生 (アメリカ国立標準技術研究所), 請盛 宏明 (八重山漁業協同組合), 近藤 康文 (シービーファーム)
P-35	実海域における電着基盤へのサンゴ着床技術の基礎研究	仲岡 宏樹 (日本防蝕工業株式会社), 木原一禎, 小川 良亮 (エムエムブリッジ株式会社), 増川 敏行 (シービーファーム)
P-36	<i>Acropora tenuis</i> による褐虫藻維持におけるインテグリン様タンパク質の機能の検討	下川 花也 (北里大・海洋), 湯山 育子 (山口大・農), 山下 洋 (水研機構), 鈴木 豪 (水研機構), 天野 春菜, 安本 剛, 神保 充 (北里大・海洋)
P-37	<i>Acropora tenuis</i> レクチン AtTL-2 は, 褐虫藻の取り込みに関与する	神保 充 (北里大・海洋), 山下 洋 (水研機構), 鈴木 豪 (水研機構), 天野 春菜 (北里大・海洋), 安元 剛 (北里大・海洋)
P-38*	ウスエダミドリイシの初期ポリプにおける褐虫藻取り込み特異性	松岡 里奈, 服田 昌之 (お茶大・院ライフサイエンス)
P-39	褐虫藻種間における遺伝子水平伝播の可能性	將口 栄一 (OIST)
P-40*	シャコガイ糞中の褐虫藻の形態変化	山本 心, 山下 洋 (水産研究・教育機構), 鈴木 豪 (水産研究・教育機構), 小池 一彦 (広島大・院統合生命)
P-41	褐虫藻の細胞表面に生息する色素細菌は藻体の環境ストレスを緩和する	高木 俊幸 (東大・大海研), 青山 華子 (東大・大海研, 東大・新領域), 元根 啓佑 (ワシントン大・工, 大阪公立大・農), 油屋 駿介 (九大・生医研), 山城 秀之 (琉球大・熱生研), 三浦 夏子 (大阪公立大・農), 井上広滋 (東大・大海研)
P-42	<i>Endozoicomonas</i> sp. がウスエダミドリイシおよび褐虫藻に与える影響	渡邊 真愛矢, 神保 充 (北里大・海洋), 山下 洋, 鈴木 豪 (水研機構), 天野 春菜, 安元 剛 (北里大・海洋)
P-43*	Effects of daily temperature fluctuations on microbial composition in corals from marginal reefs	Jia-Min Kao (National Taiwan University), Yunli Eric Hsieh (University of Potsdam), Sung-Yin Yang (National Chiayi University), Chih-Ying Lu (Academia Sinica), Chien-Yi Wu (National Taiwan University), Jing-Wen Michelle Wong (National Taiwan University), Shinya Shikina (National Taiwan Ocean University), Shan-Hua Yang (National Taiwan University)
P-44*	KTU: K-mer Taxonomic Units improve the biological relevance of amplicon sequence variant microbiota data	Po-Yu Liu (Academia Sinica), Hai-Jin Chang (National Taiwan University), Shan-Hua Yang (National Taiwan University), Sung-Yin Yang (National Chiayi University)
P-45*	高温ストレスの強い地点の造礁サンゴ細菌叢は高温下で変化しにくいのか: 水槽実験による検証	森 祥太 (琉球大・院理工), 伊藤 通浩 (琉球大・熱生研・分子生命), Jun Ishida-Castañeda (琉球大・院理工), 伊勢 優史, Cristin Manullang (琉球大・熱生研・瀬底), 金城 嵐夫, 上江洲 敏子 (琉球大・熱生研・分子生命), 木村 亮介 (琉球大・院医), 新里 尚也 (琉球大・熱生研・分子生命), 酒井 一彦 (琉球大・熱生研・瀬底)
P-46*	魚類養殖いけすに群棲するイボヤギからの細菌の単離	中高 誠一 (近大・院農), 谷口 亮人 (近大・農)
P-47	アマクサオトゲキクメイシの染色体マッピング	田口 尚弘 (高知学園大・健康科学), 伊藤 真澄 (北大・院水産), 川上 玲 (高知大・院農林海洋), Joshua Vakarizas (高知大・院農林海洋), 目崎 拓真 (黒潮生物研), 久保田 賢 (高知大・農林海洋)
P-48*	An attempt to identify the possible heat-tolerance individuals of <i>Acropora tenuis</i> using SNP markers	Yi-Ling Chiu (AORI), Ryota Nakamura (FIDEC), Atsushi Shuto (FA), Chuya Shinzato (AORI)
P-49	共生開始時におけるウスエダミドリイシの異なる褐虫藻株に対する遺伝子発現応答の網羅的比較	善岡 祐輝 (東大・大海研), 山下 洋 (水産機構・水産技術研究所), 鈴木 豪 (水産機構・水産技術研究所), 新里 宙也 (東大・大海研)
P-50	紫外線防御成分存在下でのミドリイシ属サンゴの遺伝子発現解析	芝田 桃子, 渡辺 恵悟, 杉江 祐太, 紺野 義一, 田中 健, 菅 駿一, 水野 誠, 畑 毅 (株式会社コーセー), 金城 浩二 (有限会社海の種), 中野 義勝 (OIST・海洋科学セクション)
P-51	Molecular study of moonlight regulation in final gametogenesis and spawning in corals	Tan Ee Suan, Lin Che-hung, Takahashi Shunichi (University of the Ryukyus, Tropical Biosphere Research Center)
P-52	Moonlight-independent synchronized coral spawning.	Che-Hung Lin, Shunichi Takahashi (Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus), Yoko Nozawa (Biodiversity Research Center, Academia Sinica)
P-53*	ナガラハナサンゴにおける蛍光タンパク質遺伝子の独自進化	内田 大賀 (東大・大海研), 識名 信也 (台湾海洋大), 新里 宙也 (東大・大海研)
P-54	南西諸島におけるコビミドリイシ集団の複雑な分散ネットワークと歴史の変遷	土屋 考人 (東大・大海研), 座安佑奈 (OIST・マリンゲノミクスユニット), 中島祐一 (国環研・気候変動適応センター), 鈴木 豪 (水産機構・水産技術研究所), 佐藤 矩行 (OIST・マリンゲノミクスユニット), 新里 宙也 (東大・大海研)
P-55	日本最大級のオオスリパチサンゴ群の集団遺伝解析	北野 裕子 (自然研), 深見 裕伸 (宮崎大), 山野 博哉 (国環研)
P-56	Genetic structure of Indo-Pacific coconut crab populations ( <i>Birgus latro</i> )	Sung-Yin Yang (National Chiayi University), Chai-Hsa Gan (Academia Sinica), Shashank Keshavmurthy (Academia Sinica), Chaolun Allen Chen (Academia Sinica)
P-57*	海綿由来生理活性アルカロイドパバアミンの起源に関する研究	森 舞花, 宮脇 ふく子, 辺 浩美, 酒井 隆一 (北大・院水), 遠藤 祐助, 山羽 悦郎 (北大・北方圏フィールド科学センター), 小池 一彦 (広大・院統合生命科学研究所), 小池 香苗 (広大・自然科学研究支援開発センター)
P-58	ソロモン諸島におけるナマコ類の生息環境の利用パターンの解析	谷田 巖 (水研機構), Edward Brown Hirohavi, Billy Anthony Diau (ソロモン諸島政府), 真崎 邦彦, 小松 徹 (海外漁業協力財団), Christain Ramofafia (ソロモン諸島政府)
P-59	サンゴの卵・精子・幼生を構成する特徴的な脂質の解析と局在解析	佐々木 周大, 木村 圭佑, 森 瑞季, 森 司 (日大院・生資), 山下 洋 (水産機構西海水研), 井上 菜穂子 (日大院・生資)
P-60	沖縄島海域におけるナマコ類と底質環境との関係	山口 大登 (琉球大学理工学研究所)
P-61*	サンゴ礁における酸性化緩和策としての鉄鋼スラグ利用の可能性	鈴木 陽 樹 (琉大・院理), 栗原 晴子 (琉大・理)
P-62	Soft Particle Distribution along the beaches of the Sesoko-Motobu area of Okinawa Island	Tan, Bryan Gabriel & Fujita, Kazuhiko, University of the Ryukyus, Graduate School of Engineering and Science
P-63*	マルチチャンネル型 ISFET pH センサーの開発および砂地堆積物中での鉛直 pH 分布の観測結果	小川 良太, 中嶋 秀, 山本 将史 (東京都立大学) 鈴木 拳太 (日機装株式会社), 森岡 和太 (東京薬科大), 茅根 創, 武田 智子 (東京大学), 辺見 彰秀 (メビウスアドバンステクノロジー)
P-64*	サンゴ礁への人類学的アプローチ	新川 奈緒 (早稲田大学)
P-65	喜界島のサンゴ礁文化 - サンゴ礁と人との繋がりからの視点から -	鈴木 倫太郎 (喜界島サンゴ礁科学研究所・駒澤大学応用地理研究所)

## 小・中・高校生によるサンゴ礁研究ポスター発表 Poster presentations by Elementary, junior, and senior high school student

小中高生ポスター発表は 12 日 13:30-14:30 です。ポスターは 11 日 9:00 から 13 日 16:00 まで掲示出来ます。お手数ですが、お帰りになる前に回収をお願いします。

Poster presentations by Elementary junior and senior high school student are held from 13:30 - 14:30 on Nov 12th. Poster boards are available from 9:00 on Nov 11th to 16:00 on Nov 13th. Please take your posters off before you leave the hall.

番号 No.	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
P-School 1	閉鎖循環システムによるウミブドウ飼育実験	中村 輝 (渋谷区立千駄谷小学校), 中村 翼 (東京海洋大学院海洋科学技術研究科), 増田 直記 (株式会社イノカ), 勝西 菜子 (株式会社イノカ), 佐々木 幸生 (東京海洋大学海洋資源環境学部), 江上 賢悟 (東京大学農学部), 武田 智子 (東京大学理学系研究科)
P-School 2	サンゴの白化現象調査隊	夏目 一郎 (鹿児島県立喜界小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 橋本 汎 (東京都板橋区立常盤台小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 富永 奏哉 (福岡市立百道中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 鴨谷 惟名世 (神戸市立鷹匠中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 都筑 暖和 (札幌聖心女子学院・喜界島サンゴ礁科学研究所) 宇佐美 七彩 (大成高校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 3	魚の年齢を調べる方法	吉岡 みちる (豊中市立新田南小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 加藤 文治 (江別市立大麻西小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 佐野 灯真 (名古屋市立川名中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 倉本 岳 (調布市立第七中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 鈴木 千花 (南アルプス子どもの村小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 伊藤 一真 (立教池袋中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 山村 杏 (白馬村立白馬中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 4	多種多様な体と生物の生存戦略	赤井 絆蔵 (ぐんま国際アカデミー・喜界島サンゴ礁科学研究所) 樋口 照人 (山口市立湯田小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 住吉 拓己 (東京都葛飾区立金町中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 田中 沙織 (奈良市立ならやま小中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 鈴木 杏菜 (南アルプス子どもの村小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 村上 幸優 (喜界町立喜界小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 尾山 心音 (田園調布学園高等部・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 5	砕いて見つける!最強の貝殻	伊藤 真理 (東洋英和女学院中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 橋本 昊 (東京都板橋区立上板橋第三中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 古谷 怜生 (茗溪学園中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 生駒 一花 (西宮市若菜園小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) マリアン 龍 (栗原北小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 藤原 潮路 (調布市立第七中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 6	喜界島における地形・人間活動の異なる海岸ごとの砂中のマイクロプラスチックの特性	山村 杏 (白馬村立白馬中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 7	日本最南端波照間島 ペムチ浜のサンゴ礁と生き物たち	寺尾 紘 (波照間中学校)
P-School 8	喜界島における現生サンゴの食べられやすさによる粘液量の違い	富永 奏哉 (福岡市立百道中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 9	喜界島のサンゴの色・蛍光・光合成は生息深度でどう変化するか	牧田 昊鷹 (郁文館中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 10	喜界島のサンゴ礁の波を使った発電のための流速調査	橋本 昊 (東京都板橋区立上板橋第三中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 11	人の住む環境の水からサンゴの住む水への変化	都筑 暖和 (札幌聖心女子学院・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 12	X線CTを用いた喜界島の現生サンゴの石灰化量の算出	尾山 心音 (田園調布学園高等部・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 13	うみぼうずの生き方調査隊	渡邊 翔太郎 (札幌第一高校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 川上 茶和 (八王子市立みなみ野中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 高杉 彩香 (与論町立与論中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 山口 結雅 (広島市立早稲田中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 遊座 李巴 (和光中学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 宇佐美 之悠 (津田学園小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所) 前川 志門 (新宿区立落合第六小学校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 14	ミドリイシ属サンゴの群体内部位ごとの石灰化能力の比較	渡邊 翔太郎 (札幌第一高校・喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-School 15	私たちのこれまでの取り組みについて	関 未唯奈, 小川 日菜乃, 大東 実夏, 安井 昌望 (追手門学院大手前高等学校)
P-School 16	サンゴの生態	白保小学校 6年生

## サンゴ礁保全活動ポスター発表 / Poster presentations by Reef Conservation groups

サンゴ礁保全活動ポスター発表は 12 日 13:30-14:30 です。ポスターは 11 日 09:00 から 13 日 16:00 まで掲示出来ます。お手数ですが、お帰りになる前に回収をお願いします。

Poster presentations by Reef Conservation groups is held from 13:30 - 14:30 on Nov 12th. Poster boards are available from 09:00 on Nov 11th to 16:00 on Nov 13th. Please take your posters off before you leave the hall.

番号 No.	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
P-Conse 1	八重山うみしまフレンドシップ	宮本善和, 鷲尾雅久, 鈴木倫太郎 (3名 石西礁湖サンゴ礁基金)
P-Conse 2	石垣島名蔵アンパル周辺の大規模ゴルフリゾート開発について	カンムリワシの里と森を守る会



## 自由集会 Mini-workshops

参加費  
無料

## 自由集会① / Mini-workshop ①

## サンゴ学習プログラム「どーなる!? コーラル サンゴ生き残りゲーム」体験集会

日時：2022年11月10日（木曜日） 19:00～20:30  
会場：大濱信泉記念館・多目的ホール  
オーガナイザー：大堀 則子（わくわくサンゴ石垣島）  
✉ fukumimi @ 2933tours.com

「わくわくサンゴ石垣島」は2021年の大会で「保全・普及啓発奨励賞」をいただきました。今回は私たちが小中学校で実施しているサンゴ学習プログラムの一つ「どーなる!? コーラル サンゴ生き残りゲーム」を体験していただきます。本プログラムは参加者一人一人がサンゴになりプランナから骨格を持ったサンゴへ成長する過程を、楽しみながら体験するものです。ゲームを通してサンゴの増減と環境負荷との関係を学ぶ内容となっています。実際にゲームを体験していただき、みなさまの専門的な視点からご意見をいただく場としたいです。

## 自由集会③ / Mini-workshop ③

## 喜界島サンゴロジ

日時：2022年11月12日（土曜日） 19:00～20:30  
会場：大濱信泉記念館・多目的ホール  
オーガナイザー：渡邊 剛、山崎 敦子、駒越 太郎  
（喜界島サンゴ礁科学研究所）✉ komataro @ kikaireefs.org

喜界島を舞台に行われている「サンゴ礁の科学とアートの融合」をテーマに、喜界島でのフィールドワークを基にアーティストと共同で製作した「演劇」の作品を評価し、異分野の研究者や地域のステークホルダー、異なる世代間において、エンパシーの獲得と未来思考の協働作業の促進を目指す方法の開発と実践についての議論を深める。

## 自由集会⑤ / Mini-workshop ⑤

## サンゴ礁への恩返し、いま私たちがすべきこと。～石西礁湖自然再生協議会より～

日時：2022年11月13日（日曜日） 16:00～17:30  
会場：石垣市民会館 中ホール  
オーガナイザー：大嶽 若緒（環境省）✉ WAKAO\_ODAKE @ env.go.jp

NPO法人石西礁湖サンゴ礁基金（理事長：鷲尾 雅久）との共同企画である。石西礁湖自然再生協議会は2006年2月の設立以降、主に学術調査、海域・陸域対策、普及啓発・適正利用の分野別に議論や意見交換を重ね、目標である「人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す」の達成に向け取り組んでいる。この集会では、協議会の最前線の取組を紹介し、地域の方々や研究者の皆さんとの意見交換を通して、私たちができるサンゴ礁への恩返しについて考えたい。サンゴ礁の保全は、地域の経済や生活と密接に関わっていることを再確認し、私たちの暮らしの中の“できること”を、ともに発見したい。

## 公開シンポジウム Public Symposium

参加費  
無料

## サンゴ礁で獲れる魚たち～サンゴが減ると魚も減る？

日時：2022年11月13日（日曜日） 9:00～12:30  
会場：石垣市民会館中ホール 沖縄県石垣市浜崎町1-1-2

沖縄県では1998年に大規模なサンゴの白化が起り、サンゴ礁生態系に大きな影響を与えた。大規模サンゴ白化後の死サンゴ骨格上には藻類が繁茂するため、藻類食魚類の増加を促すことが予想され、沖縄県水産海洋技術センターの漁獲統計でも、1998年の白化の数年前～7年後に藻類食魚（ブダイ科・ニザダイ科・アイゴ科・イスズミ科）の漁獲量が一時的に増加している。このような漁獲量の増減は、周辺海域に生息する個体の集合や離散を反映している可能性もあるが、資源量の増減を反映している可能性もある。また、サンゴを餌などとして直接利用する生物の増減により、間接的な影響を受ける漁獲対象魚種・資源も存在すると考えられる。このようなサンゴの減少が生態系に与える影響について、特に水産魚種に焦点を当てて既往の知見を整理し、その増減機構を解明するための課題について議論する。

演者および講演内容：

- 中村 崇（琉球大学 理学部 海洋自然科学科）  
「石西礁湖におけるサンゴ群集への大規模白化による攪乱」
- 名波 敦（水産研究・教育機構 水産技術研究所）  
「魚類とサンゴの関係について」
- 秋田 雄一（沖縄県 農林水産部 水産課）  
「サンゴ礁生態系における藻食性魚類の摂餌による藻類等除去機能の評価」
- 太田 格（沖縄県 農林水産部 水産課）  
「漁業データを用いた沖縄のサンゴ礁生態系の評価」
- 今井 秀行（琉球大学 理学部 海洋自然科学科）  
「サンゴ礁性魚類資源の管理単位について」
- 下瀬 環（水産研究・教育機構 水産資源研究所）  
「漁獲対象魚種の生活史特性から考えるサンゴ白化への応答」

主催：一般社団法人日本サンゴ礁学会

活動紹介

「サンゴ研究開発促進プラットフォームCORDAPのご紹介」

笹川平和財団海洋政策研究所 渡邊 敦 ✉ a-watanabe@spf.or.jp

サンゴ研究開発促進プラットフォーム (The Coral Research & Development Accelerator Platform, 以下 CORDAP, URL: https://cordap.org/) について、学会員の皆さんは聞いたことが無い、という方が大半だと思います。これは 2020 年 9 月にサウジアラビアが議長国となって開催された G20 環境大臣会合で設立されたイニシアチブで、サンゴ (深海サンゴ含む) およびサンゴ礁を守り次世代に引き継ぐための科学技術の開発を国際的協働で加速しよう、というのが主な目的です。温度上昇を 1.5℃に抑えるという最良シナリオ下においても、世界のサンゴ礁の 70 - 90%が失われる可能性が高いことが科学的に示されて来ましたが、こうした危機を示すだけでなく、多くの国が連携してこうした危機の原因を取り除くための科学技術の基盤を作って行こう、ということが背景にあります。

CORDAP には G20 からサウジアラビアをはじめ、統治委員会 (IGC) としてアルゼンチン、オーストラリア、カナダ、EU、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、日本 (環境省)、メキシコ、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、イギリス、アメリカの政府が参加しています。IGC のアドバイザーとしては、国際サンゴ礁学会 (ICRS)、ICRI、UNEP などが参加しており、JCRS からオブザーバとして筆者が参加しています。また専門家委員会 (SAC) の委員には約 20 名の専門家が名を連ね、日本から本学会の山野博哉会長が参加しています。全体のプロジェクト進行を管理し、事務的サポートをする事務局をサウジアラビアのキングアブドラ科学技術大学 (KAUST) が担い、事務局長を同大の Carlos Duarte 教授が務めています。予算としてサウジアラビアが年間 1,000 万米ドルを拠出することを公言しており、その他の国からの財政支援を呼びかけ年間 3,000 万米ドルの確保を目指すことを表明しています。

CORDAP は 6 つの優先的投資領域を定めて、プロポーザルを募っています。新規性のある研究開発プロジェクト、現存する取組の改良とスケールアップ、研究開発の適応地域への翻訳 (最適化)、短期 (半年程度) のスコーピング・計画、取組を補完する基礎科学研究、研究開発を地域適用するための能力構築の 6 つです。2022 年夏には、最初のプロポーザルの募集を開始しました。応募者はまず簡単なコンセプト・ノートを提出し、採択された場合、より完全な計画書を提出する流れになっています。

サンゴおよびサンゴ礁の保全、再生を大規模に行うには、既存の能力と必要とされる能力との間にギャップが存在しており、これをオープン・イノベーションで分野横断的に埋めていこう、というのが CORDAP の基本戦略です。日本のサンゴ、サンゴ礁研究者や技術者の優れた成果が、同プラットフォームへの提案として提出されるためには、まずは CORDAP に関して認知度を向上する必要があると考えます。詳細にご関心をお持ちの方がいらっしゃれば、筆者までご連絡いただければと思います。(了)

【参考リンク】 Carlos M. Duarte. CORDAP 戦略計画によるサンゴの再生・保全の加速。笹川平和財団海洋政策研究所発行 Ocean Newsletter, URL: https://www.spf.org/opri/newsletter/ (10 月下旬発行)



写真: 2022 年 6 月下旬にポルトガル・リスボンで、第 2 回国連海洋会議に合わせ開催された IGC と SAC 合同会合の集合写真

サンゴ礁研究ハイライト

公表論文 Coral-killing sponge *Terpios hoshinota* releases larvae at midnight

Hirose Y, Aini SN, Yamashiro H (2022) Coral Reefs 41: 149-160

ハイライト:

「幼生は真夜中に旅立つ 一長期間そして多量に一」

テルピオスカイメン *Terpios hoshinota* は、シアノバクテリアを共生し、厚さ 1mm 以下の灰色から黒色のカイメンです (図 1)。インド太平洋に広く分布し、サンゴを覆い殺すことから、底生のサンゴ礁生物を減少させる要因の一つとなっています。しかし、幼生の放出時間や時期については、これまで情報がほとんどありませんでした。今回の研究で、本種は幼生を深夜に、満月の 5 日後から新月にかけて、7 月から 11 月と長期間に渡って放出することを明らかにしました。

幼生は海水よりも重く沈むので、サイホン方式の装置を用いて幼生を回収しました。その結果、幼生の放出は終日見られるもの

の、そのピークは深夜 0 時から 4 時にかけて最大となることがわかりました (図 2)。その他のカイメン類の幼生放出は、朝方から昼間に起こることが知られているため、本種の幼生放出は例外的な時間にピークを持つことがわかりました。月齢との関係では、満月の約 5 日後から新月にかけて多くの幼生放出が確認できました。さらに、7 月から 11 月まで長期に渡って放出されることもわかりました。カイメン類の幼生は、通常、出水口から体外に放出されます。しかし本種の場合、表面の組織から直接体外に出ていく例外的な事例であることも確認できました。小指ほどの枝状サンゴを覆うカイメンから、約 1000 匹の幼生が採取された例もありました。

以上の結果から、本種はサンゴの幼生放出とは異なり、放出時間帯に幅があり、放出期間も 5 ヶ月と長いことから、サンゴ礁域に絶え間なく幼生を供給し続けていることが明らかとなりました。本種を含め、サンゴを覆い殺すカイメン類は、今後も拡大していくことが懸念されており、幼生の挙動を把握することは、サンゴ被覆性カイメン類の動態を解く鍵となります。

連絡先:

廣瀬友里香 ((一社) 環境パートナーシップ会議) ✉ florida2004yrk@gmail.com  
山城秀之 (琉球大学) ✉ hyama@lab.u-ryukyu.ac.jp

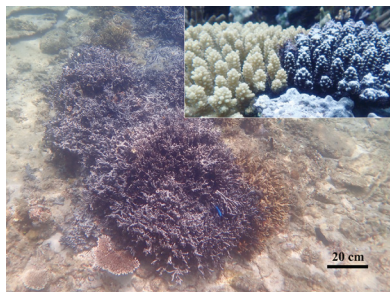


図 1: カイメンに覆われて焼け野原ようになったサンゴ (大宜味村)

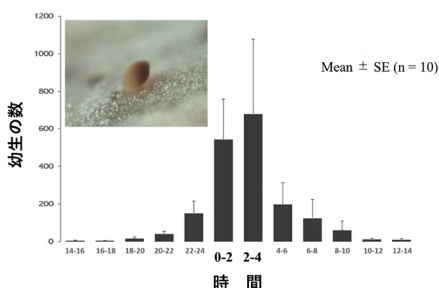


図 2: 幼生 (長径 500µm) 放出のピークは夜中 (0 ~ 4 時)

編集後記

いよいよ第 25 回大会が石垣市で開催されます。現地開催は 3 年ぶりですね。実行委員の皆様へ感謝です。

編集担当 田中 健太郎



2022 年 11 月 4 日発行

日本サンゴ礁学会ニュースレター [ 2022 年 11 月 ]  
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No.95

● 編集・発行人 / 「日本サンゴ礁学会広報委員会」  
樋口・岨・高木・田中(健)・中嶋・藤井(琢)・本郷・山下(洋)・山本(将)・湯山・和田  
● 発行所 / 一般社団法人日本サンゴ礁学会 ● 事務局 / e-mail: info@jcrs.sakura.ne.jp FAX: 088-880-2284  
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小通 185-1 一般社団法人日本サンゴ礁学会